

減収補填を求める予算組替え動議否決

議会報告会などで疑問の声、相次ぐ

12月議会は15日が最終日でした。常任委員長からの議案などの審査報告の後、宮越議員から「猛暑などによる農産物の減収被害はまさに災害級だ。妙高市のように減収補填の予算に組み替えるべきだ」として一般会計補正予算について組替え動議が提出されました。

私は日本共産党議員団を代表して討論に立ちました。そのなかで今回の農業予算についても触れ、「今夏の猛暑の中で、農家のみなさんは戦後の上越の農業史に残る大きな被害を受けた。行政のみなさんからは、様々な角度から支援の予算を組んでいただいたことは一定の評価をする。しかし、上越市は全国に誇る食料農業農村基本条例を持った市であり、この条例にふさわしく、困難に陥った農家を救済すべく、最大級の支援をすべきだった」とのべ、組替え動議に賛意を示しました。しかし、この動議は宮越議員の他、日本共産党議員団の3人、丸山、滝沢、近藤の各議員が賛成しました



が他は反対で、否決されてしまいました。このことは地元紙でも報道されました。この件については19日に板倉区で開催した私の議会報告会（イラスト）などでも参加者から、「どうして補填しないのか」と疑問の声が上がっていました。

特別職等の期末手当引上げ

今定例議会に提案された議案の中に

は、市長などの特別職や議員の期末手当引き上げ案がありました。私はこれらの関連議案について、討論の中で、「市民は依然として物価の高騰などの中で厳しい暮らしを強いられており、こうした中での引き上げは市民の支持を得られない」とのべ、反対しました。反対は日本共産党議員団だけでした。



【イソギク】キク科の多年草です。漢字で「磯菊」と書きます。読んで字のごとく、「磯にはえるキク」です。「イワギク」という別名もあります。地下茎でどんどん増えていきます。花期は10～12月です。一番高い部分に黄色の花がたくさんつきます。花言葉は「感謝」。写真は12月14日、大島区竹平にて撮影しました。

保倉川放水路建設促進議員連盟の勉強会が18日に行われました。北陸地方整備局高田河川国道事務所の安達所長などがスライドを使って、先日決定した放水路のルート、開削による海風の影響、飛来塩分の影響、今後の進め方などについて説明しました。ルート設定にあたっては、地域分断を最小とするなど地域住民の生活への配慮をしたことなどを明らかにしました。今後については、関係住民との丁寧な話し合いが大事になってきます。

保倉川放水路について

市議会主催の「議員定数のご意見を聴く会」が市内3会場で開催されました。このうち福祉交流プラザでは、「議員の役割が大きくなっている段階で減らすのは違う」「議員は地元だけでなく、市政全般を見る必要がある」「単純に言うところ、人口が減っているなら減らしてもいいのではないのか」等の声が多々と出ました。

議員定数、どう考えるか

はしづめ法一の
活動レポート

No.2139 2023.12.24

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のいかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL https://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七八六回

アサガオ

十二月議会の最終日、会議が早く終わったので、市内岩木の娘さん夫婦の家に住んでいるキ工さんを訪ねました。

キ工さんの部屋に入ると、ちょうど朝食を終えたところでした。キ工さんは思っていた以上に顔色が良く、ホッとしました。ベッドに座り、背中を伸ばして私に話しかける姿勢もすっきりしていて、体調の良さを感じさせました。

お茶をご馳走になり、世間話を始めてまもなく思いがけない言葉を耳にしました。「おら、七日の日に、板山に連れてってもらってきた」

ビックリしましたね。確かに、春以来、リハビリに努め、ベッドから車椅子への移動もできるようになり、トイレにも自力で行ける。そこまで回復していましたから、もう少しで歩けるようになるかもしれない、そう思っていました。でも、大島区板山の家にまで行けるとは思ってもみませんでした。

もちろん、自力で板山の家に行ったわけではありません。娘さん夫婦とともに出かけ、二人に抱えてもらって家に入りました。キ工さんは、「家の中には、ようでもないものがいっぱいあって……」とうれしそうに言いました。

二年前の十一月二日、キ工さんは急にふらつとして、体調がおかしくなり、娘さんに電話しようにも電話機のところまで行けませんでした。最終的には、なんとか緊急ボタンを押して、娘さんと連絡をとることができましたが、医療機関に運んでもらって入院しましたので、家の中の状態は基本的には当時のままです。

板山の家には仏壇も神棚もあります。キ工さんは、家に入ってから、どちらにも手を合わせてお参りしました。こうして、長年連れ添った夫などに感謝の気持ちを伝えることができた、そのことがとてもうれし

かったようです。

うれしかったのは自分の家に入ってお参りできたことだけではありません。長年親しくしていた近所の人たちの家も訪ねることができたのです。「てづかみ」(屋号)のお母さんなどから、「まあ、よく来たなえ」と言われたそうですが、みなさん、心配しておられたんですね。私の従弟(いとこ)の家に行ったときには、「入らんねそつたら、ぶってやるわい」とも言われたとのことでした。

二年ぶりに板山に行った話が一区切りしたところで、キ工さんの話は、大瀧区の弟のことになり、「おまんた弟さんの娘さんが新しい車、買ってもらったでがで、おまんたばちやを乗せて、おらちに来てくんかったもんだ」と思い出を語ってくれました。もう何年も前のことなのでしょうが、姪(めい)が母を乗せて板山のキ工さんを訪ねたという話は初めて聴きました。おそらく、母が姪に頼んだのでしょうね。

この日、キ工さんは、週に二回行くデイサービスの様子も語ってくれました。九七歳にもなる人が杖も使わずに歩いているとか、百歳になる人が朝からずっと塗り絵をしている、などといった話です。そういう様子をしっかりと見ているキ工さん自身もすごいと思うのですが、暗い話やさみしくなるような話が全然出ないところを見ると、やはり元気に生きている人を見ると、自分も頑張るぞという前向きな気持ちになるのだと思います。

キ工さんは大島区竹平生生まれの九四歳。私の生家のすぐ下の家で育ちました。乳の出が悪かった母に頼まれ私に乳を飲ませてくださった恩人です。岩木の家を出ると、玄関先に咲く赤紫色のアサガオを見ました。とつくに盛りを過ぎていますが、小さいながらもきれいな花を咲かせています。キ工さんと重なって見えました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月13日(水)	12月20日(水)
上越南消防署	0.053	0.047
上越北消防署	0.040	0.043
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.063	0.063
東頸消防署	0.053	0.040
名立分遣所	0.063	0.053
高士分遣所	0.050	0.053

美しい天体写真にうっとり

福祉交流プラザで開催された天体写真展を16日、観てきました。主催は上越天体写真友会の会、天体写真展は2回目です。

先日、高田小町で日時計について講演された細谷(ほそや・まこと)さんや元上越市都市整備部長だったSさんなどの写真を観てきました。アンドロメダ星雲、バラ星雲などきれいなものが多かったですね。



定住を決意したのかな

先週は吉川区下町地内の田んぼで何回もコウノトリの姿を見かけました。写真は19日に撮ったものです。右側のコウノトリは4歳のオスです。何度も見かけていますので、吉川区に定住を決意したのかも知れません。

